

愛媛で両立の経験のある人または両立をしようとしている人の
多様性に関する実態調査

2023年3月

【序章・はじめに】

■目的

あなたのモヤモヤを社会に発信して発展へ

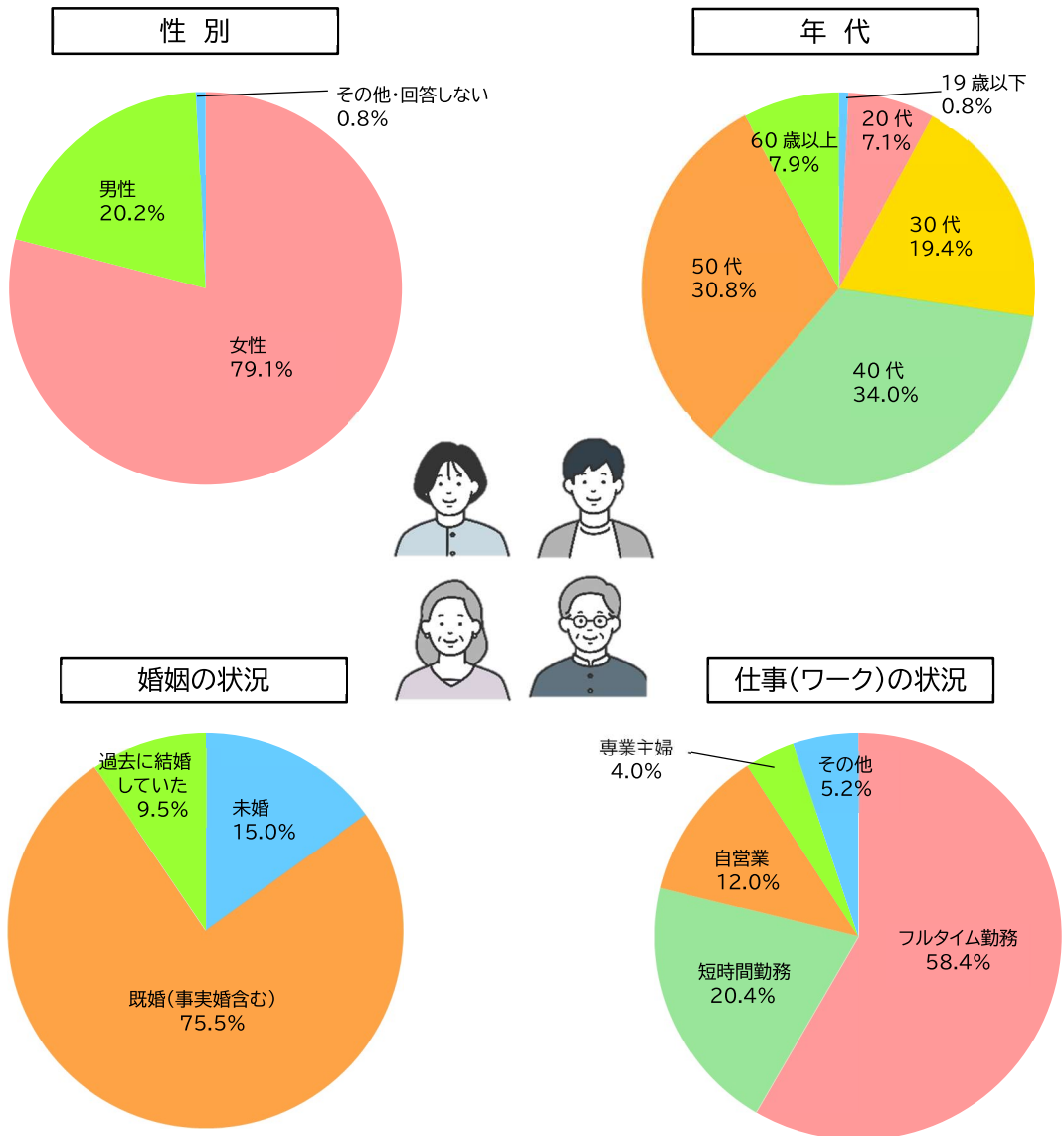
あなたの両立に関するモヤモヤを社会の課題解決につなげるために、アンケート調査を実施しました。

「愛媛で両立の経験のある人、または、両立をしようとしている人の多様性に関する実態調査」 調査概要

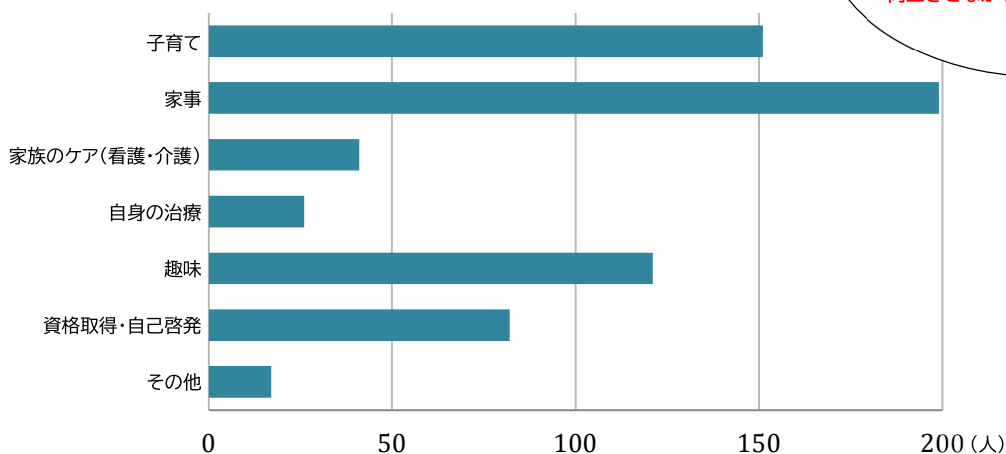
アンケート目的	仕事と暮らしを両立することに関するお困りごとを知り、その悩みを解決する（特別な配慮ではない）サービスや支援につなげ、生きづらさ（コンフリクト）を少しでも減らすこと。また、そのサービスや支援を行う企業や公共団体が増え、両立する人・雇用する企業が“win-win-win”となることを目的として実施する
調査対象	愛媛で両立の経験のある人、または、両立をしようとしている人
調査方法	「仕事と暮らしの両立フェスタ」（2022年12月4日開催）への来場者、SNS等を活用したwebアンケート
調査期間	2022年12月1日～12月31日
総回答数	253名
調査結果	NPO法人 ワークライフ・コラボのHPにて公開

※このアンケートは、公益社団法人えひめ女性財団の調査委研究助成金を受けて、NPO法人ワークライフ・コラボが実施しました。

◆回答者の属性◆ ※端数処理が四捨五入のため合計が100%にならない場合があります（以下同様）。



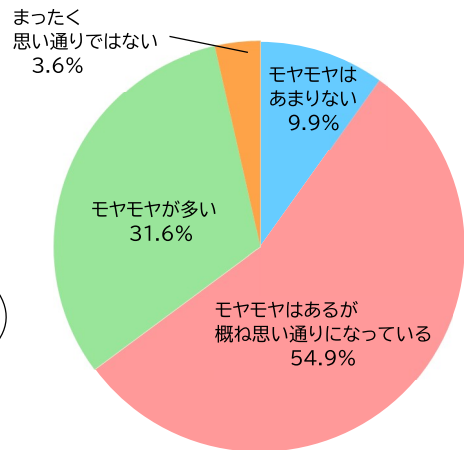
◆暮らし(ライフ)の状況◆ ※複数選択可



答えた人が253人なのに、
回答数が637もあるってことは、
みんな2つ以上の何かを
両立させながら生活している
ってことだね。



◆仕事と暮らしの両立にモヤモヤがある？ない？◆

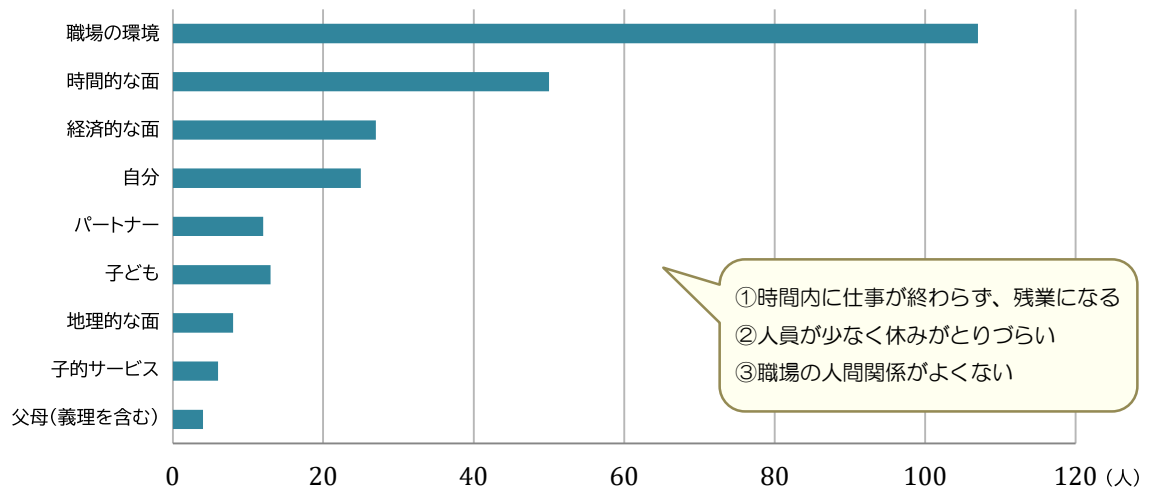


◆モヤモヤの対象 ランキング1～3位はこれ！◆

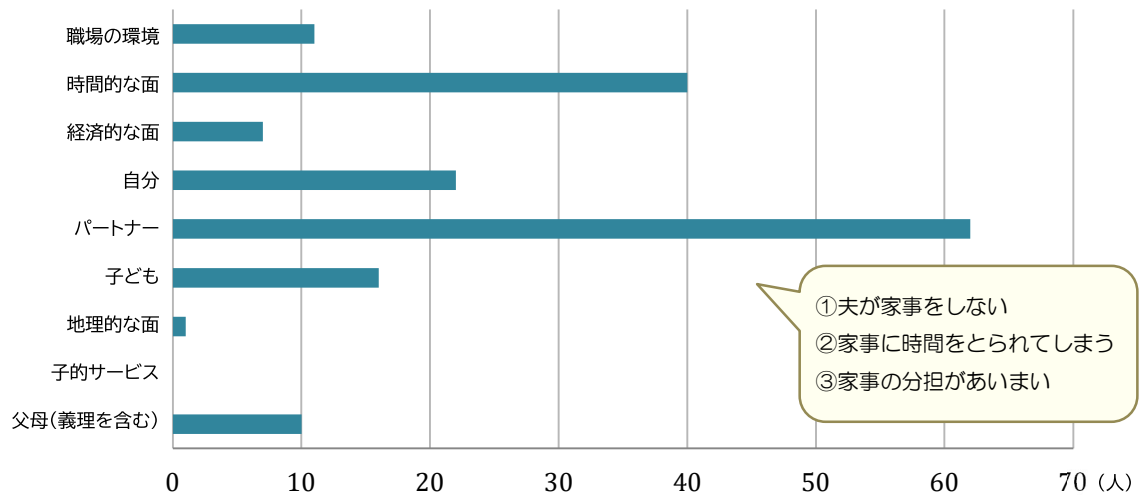


ユーザーローカル AI テキストマイニングによる分析 (<https://textmining.userlocal.jp/>)

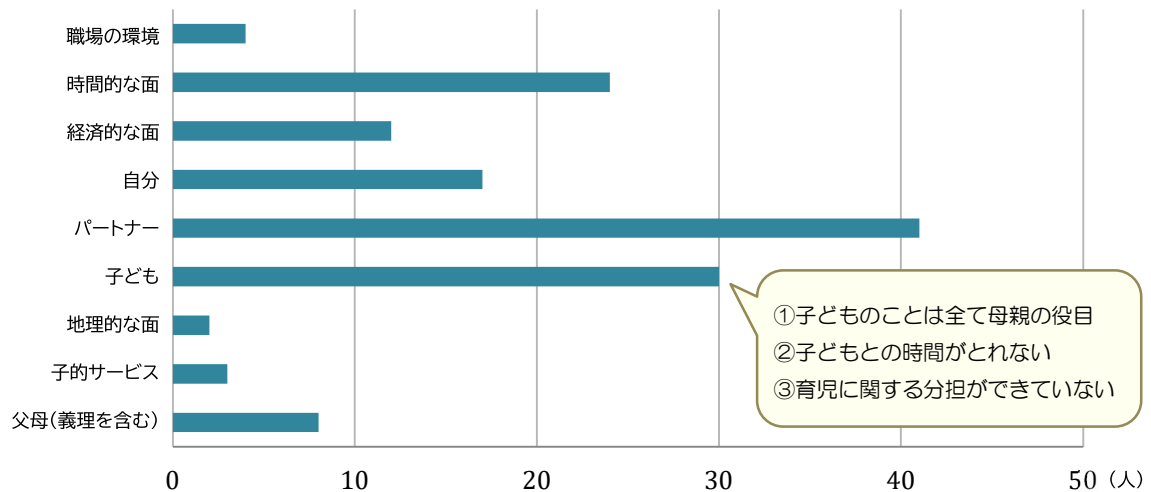
◆【仕事】に関するモヤモヤの原因は？◆ ※複数選択3つまで可



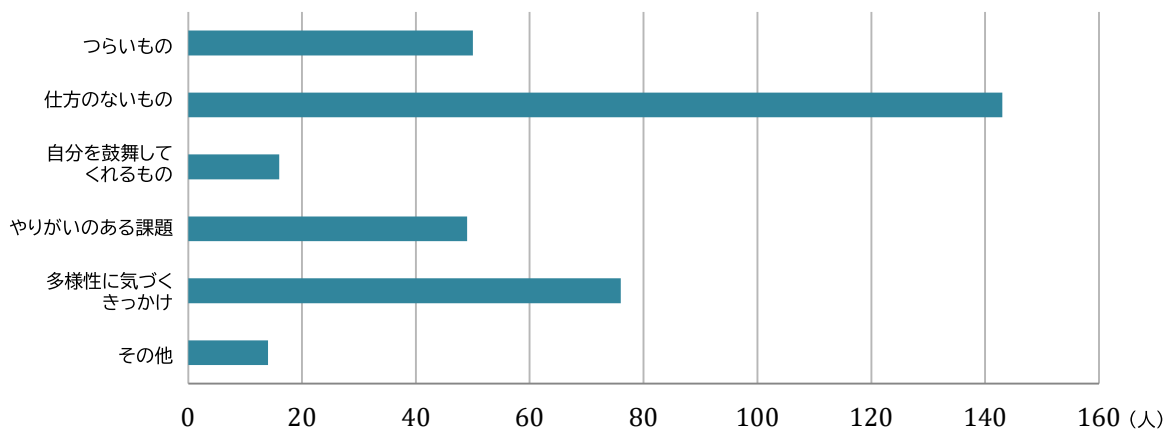
◆【家事】に関するモヤモヤの原因は？◆ ※複数選択3つまで可



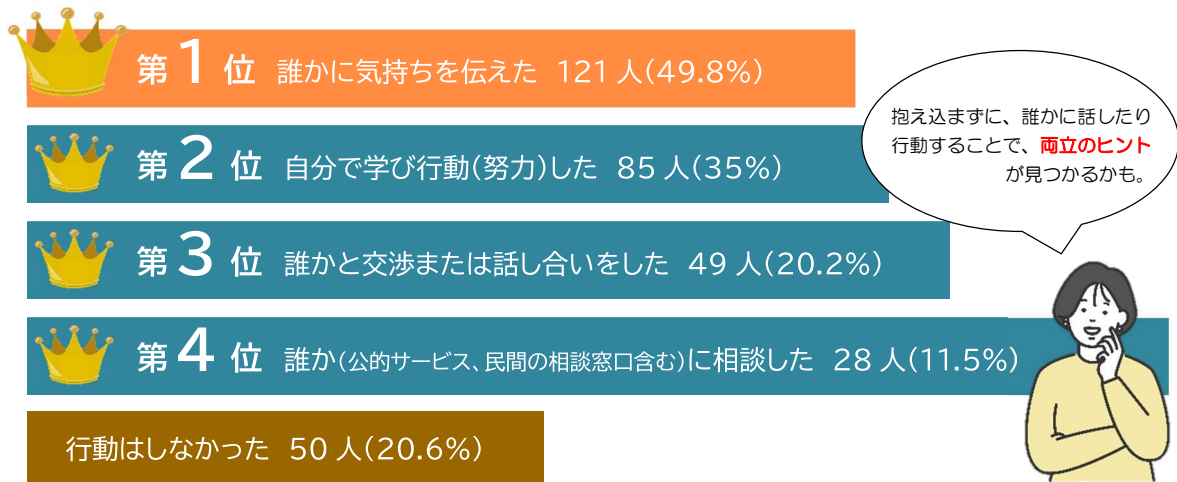
◆【子育て】に関するモヤモヤの原因は？◆ ※複数選択3つまで可



◆あなたにとって仕事と暮らしの両立におけるモヤモヤはどんな存在ですか？◆

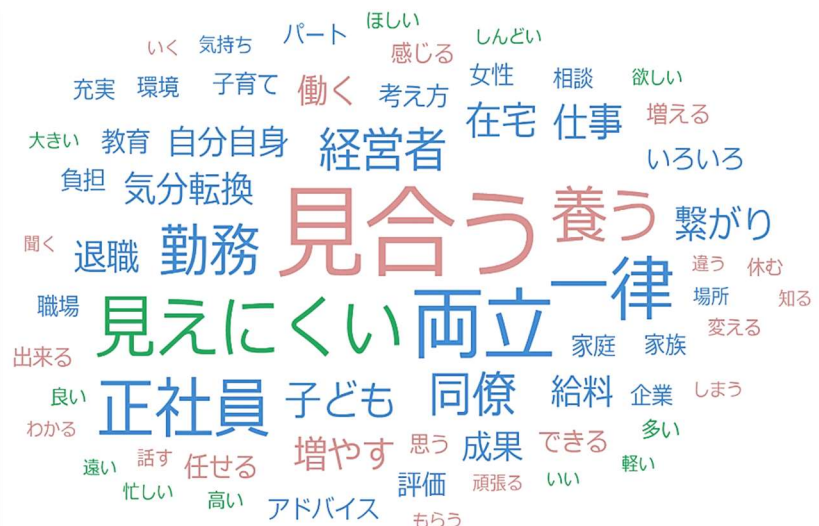


◆モヤモヤ度No.1の要因に対して、どのように行動しましたか？◆ ※複数回答可



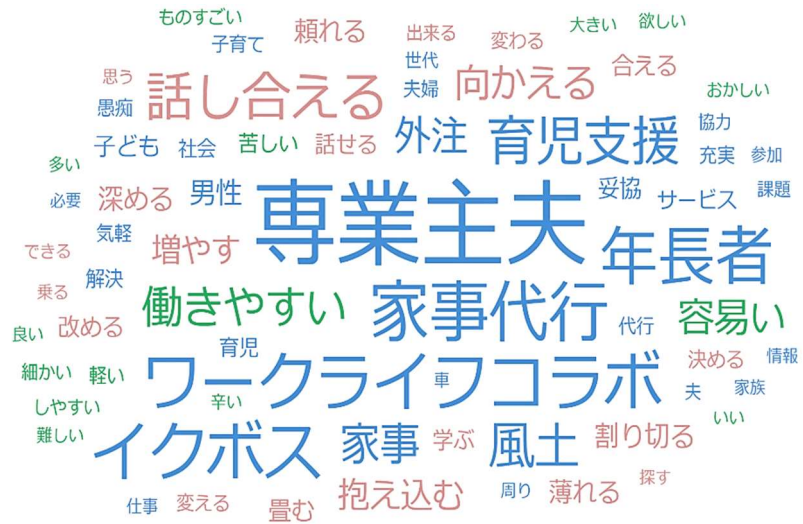
◆解決するための思いや提案◆

- 仕事に関する提案**
- ・職場の先輩や同僚に相談して、アドバイスをもらう
 - ・いろいろな人の話を聞く機会を持ちたい
 - ・同じ立場同士で相談しあえる場がほしい



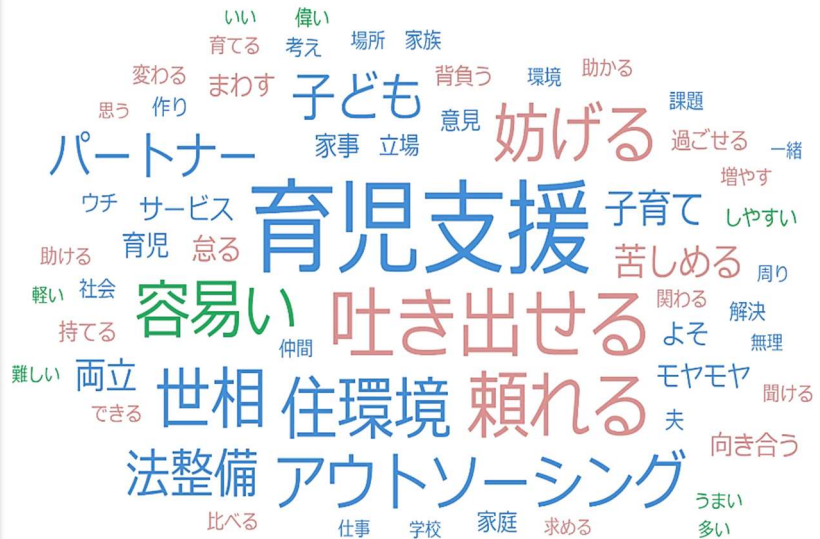
家事に関する提案

- ・夫婦の相互理解、家族の共通理解と協力が必要
- ・家事育児代行サービスを気軽に使いたい
- ・言葉にすると気持ちが少しは軽くなるので身近に話せるところがあれば良い



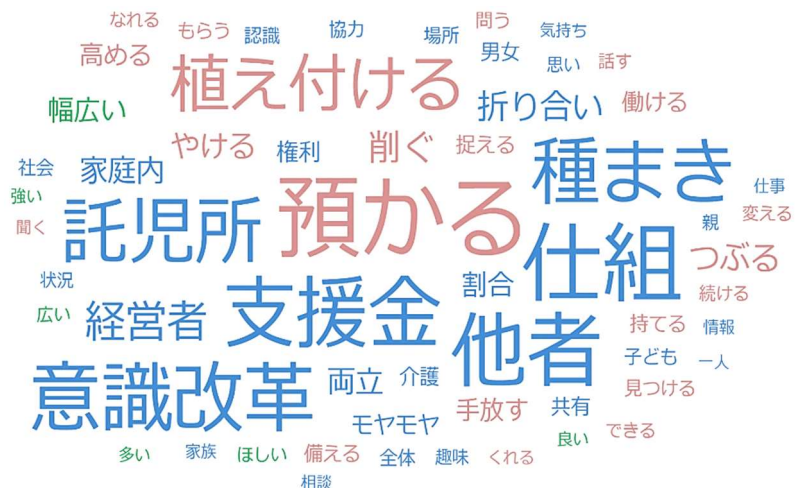
子育てに関する提案

- ・育児について母親が主体ではなく夫婦、社会全体で関わる仕組みがあるといい
- ・自分だけで背負わないように、パートナーや周りに話を聞いてもらう
- ・自分も子どもも、いろいろな選択肢や意見があることを認識する



その他の提案

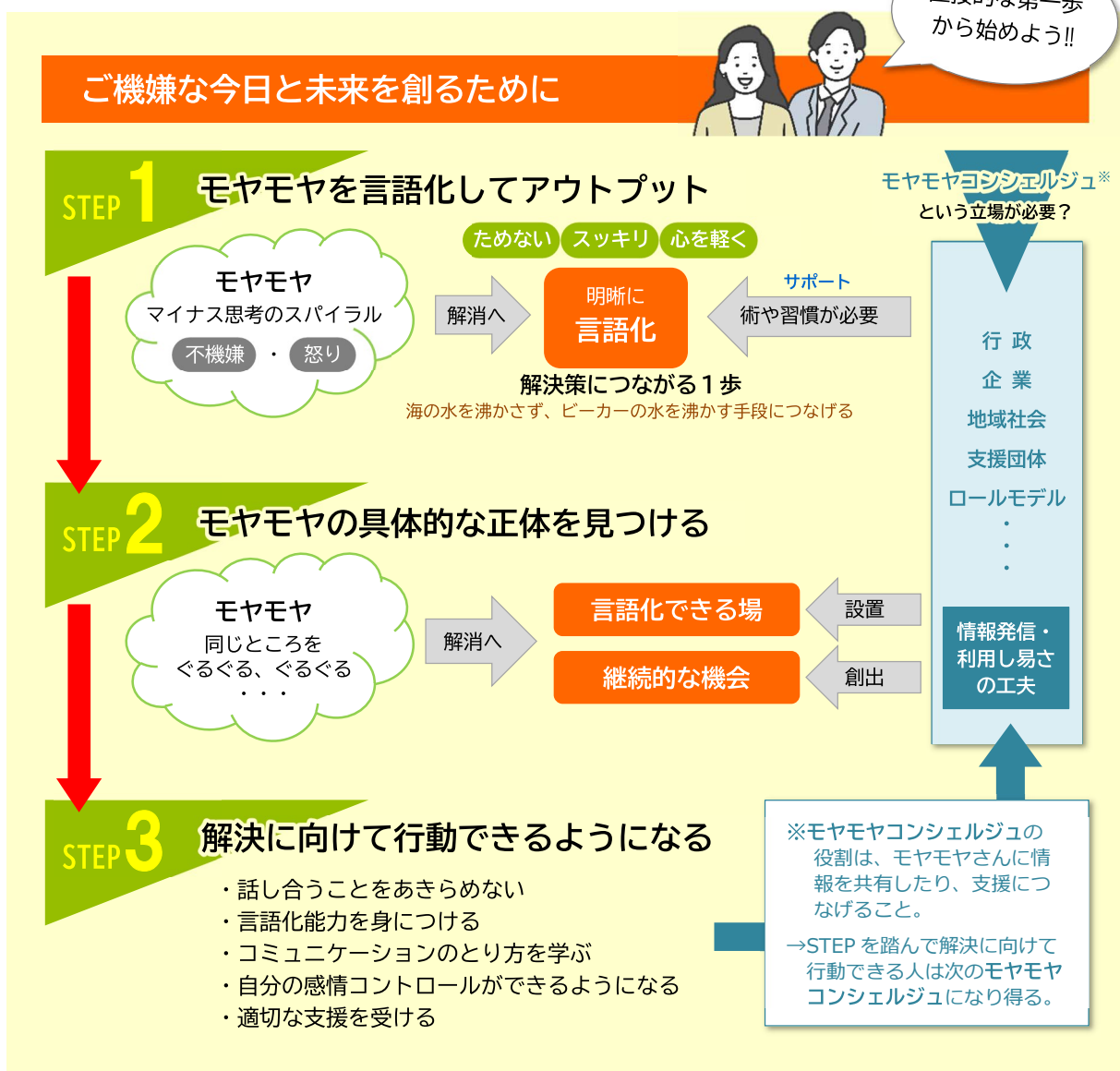
- ・相談場所を見つける
- ・セカンドオピニオンを気軽にしたい
- ・団体のトップの割合を男女同数にする—そうすることで社会全体の意識が変わる



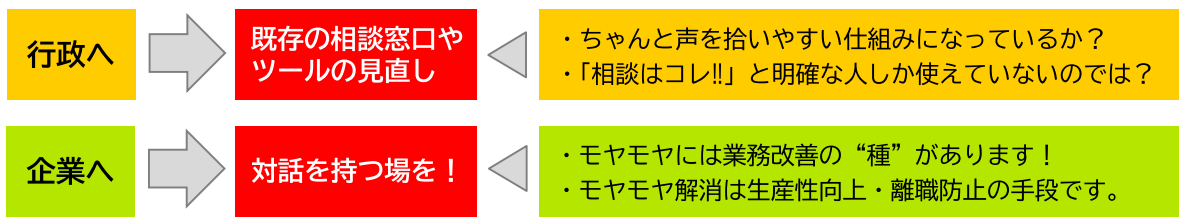
◆アンケートから見えるもの◆

- ▶ パートナーに対する不満、職場環境、そこで「あきらめている」現状がある。(→P4)
→そこを「対話を持つ」という一歩を踏み出すことができれば、何らか解決できるのかな…。
→(都道府県版ジェンダー・ギャップ指数によると)愛媛県の共働き世代の家事育児時間は女性(3時間58分)が男性(41分)の5.7倍というデータと紐づく。四国4県では最短、全国でも43位とワースト5に入り、男女の性別役割分担意識は根強い。
- ▶ 気持ちを誰かに伝えた人が半数(49.8%)いる。(→P5)
→言葉にできない不安やしんどさを抱えていることがうかがえる
→すでにある公的な相談場所の利用者は少ない(11.5%) →知らない? 使いづらい?
→必要な人に届く情報発信や工夫が足りているか
→利用しやすい人や場所になっているか
- ▶ 両立のモヤモヤを「仕方ない」(57.9%)と諦めているという現状も見える。(→P5)

◆まとめ ~両立のモヤモヤを抱える私たちに必要なこと~◆



◆ 提言 ◆



信頼関係をつなげる場づくりや心理的安全性を担保することが大切で、そうすることで個人の成長はもとより、企業・社会の成長を促すと考えます。

見えている課題あるいは埋もれている課題に耳を傾け、個人・企業・社会が繋がりをもち、互いに理解・協力し合う中で解決していくことが必要です。



調査を終えて—

ワークライフ・コラボは「仕事と暮らしの両立フェスタ」を2030年まで開催します！

ワークライフ・コラボは、「誰もが自分らしい働き方・生き方ができるよう、人と企業と地域をつなぐこと」をその役割として活動しています。

その中で見えてきたのは、

- ①企業は、人口減少により「人手不足」が深刻化しているにもかかわらず「子育て」「介護」「治療」「地域活動」などを担う「両立人材」をうまく経営に活かせていない。
- ②働く人は、働き方・暮らしのスタイルが多様化しており「子育て」「介護」「治療」「地域活動」と仕事の両立が必須の時代になってきているのに、「仕事と暮らしの両立」に向き合う機会や情報が無い。

という課題でした。

そこで今回の調査も踏まえ、仕事と暮らしの両立におけるモヤモヤの見える化と企業の取り組み紹介を通じて、まずは「働く人」「企業」「地域」それぞれが自分とは違う価値観と出会い、「共感できなくても、理解はできる」という状態となることを目的に『第1回 仕事と暮らしの両立フェスタ』を開催しました。（2022年12月4日）

「両立ができているかどうか」、「暮らしが豊かであるかどうか」は、言葉を選ばずに言えば個人の解釈です。だからこそ、それぞれが困っていること（モヤモヤ）を相談できる場所、解決につながる知識やツール、それを次の人に繋げていくアクションを起こす「場所」や「情報」が必要です。

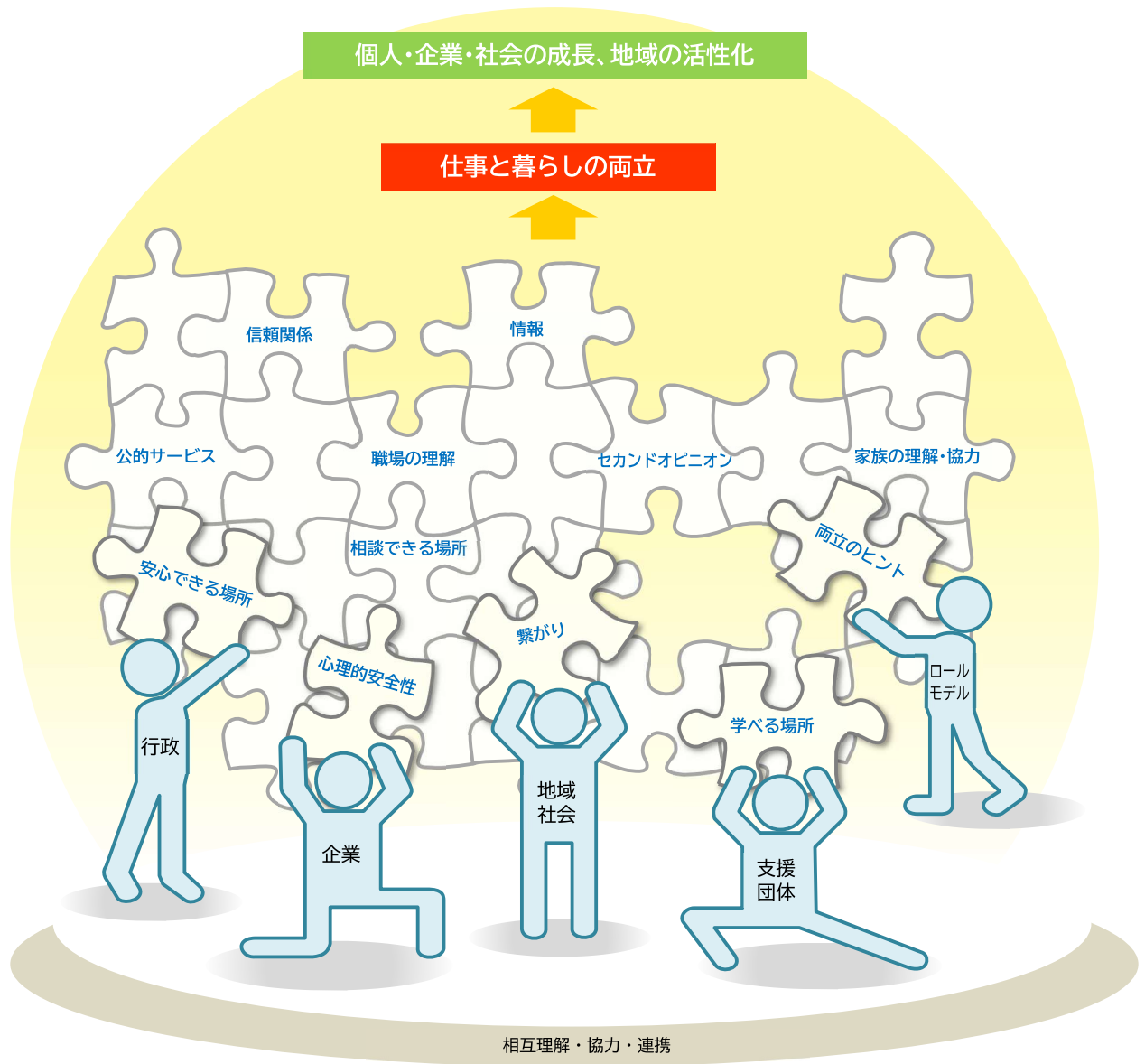
そして、私たちを取り巻く環境や課題はその時代によって変わっていくでしょう。今回のイベント・調査を通して私たちもまた、新たな出会い・発見をいただきました。

だからこそ、両立しようとする労働者、雇用する企業、またそれを支援する行政や地域…、それぞれが「ジブンゴト意識」で「どうすればより良くなるか」を考え、気づき、行動することを継続することが重要だと改めて感じました。

この調査結果から、私たちの次の課題は『働く人がなぜ「仕事と暮らしの両立のモヤモヤ」を「仕方ない」と諦めているのか』をひも解いていくことだと捉えています。

働く人・雇用する企業そして地域が“win-win-win”となるために。

特定非営利活動法人 ワークライフ・コラボ



あなたは、
 1歩、踏み出したい人
 1歩、踏み出したい企業
ですか？

お問合せ先：
wlc-contact@worcolla.com



人と企業と地域をつなぐ。

NPO法人ワークライフ・コラボ